

愛 知 県 知 事 殿

尾張旭市長 柴 田 浩
(公印省略)

検証実施報告書

令和6年8月21日付け6災対第476―5号で事業を決定された後、新たに整備したペット受入体制を基に検証を実施しましたので、令和6年度ペット同行避難対策事業実施要領第9の規定に基づき、下記のとおり提出します。

記

実施日	令和6年10月27日
実施場所	尾張旭市立白鳳小学校(尾張旭市白鳳町一丁目12番地)
内容	1 参加者 27人(市職員3人、尾張旭防災リーダー会2人、白鳳自主防災組織2人、飼い主20人) 犬9頭 2 検証方法 本市の総合防災訓練の一環として実施。本市の現体制に沿った敷地内別居避難と今後の展望を見据えた同室避難による検証を行った。 3 検証項目 (1)新たに整備したペット受入体制の内容及びその評価

・初動期

ア 避難所運営のために使う場所の指定

○ ペット保管場所の考え方

本市の避難所運営マニュアルではペットの飼育場所について特定していない。今回指定避難所である尾張旭市立白鳳小学校の校舎間の渡り廊下の下部分を飼育場所として検証を実施したが、風の通りが良く臭気の問題も軽度に抑えることが可能で、飼育場所としては適していた。ただし悪天候の場合は雨風に対応できるようにブルーシートによって周囲を囲うといった工夫が必要になり、季節によっては暑さや寒さ対策が必要となるため、そういった点も踏まえて昇降口内などの室内も含めて飼育場所を検討するとともに、送風機や毛布といった備蓄を進めるべきであるとする。

イ 避難してきた人々の受付

○ ペット連れの避難者の受入方法の考え方

ペット保管場所と同様に明確な定めが無く、飼育場所付近の昇降口前で実施したが、混雑・混乱することなく受付を終えた。しかし、災害時に多人数の避難者が来る場合は、受付で滞留する可能性があるため、待機場所を明確化するなどの対策をするべきだと考える。悪天候の場合でも昇降口の中で実施すれば問題はないと考えられるし、一般の避難者が体育館へ避難することを考えれば、一定の距離が保たれていることも良かった。また、ペットの受付票では飼い主の情報は詳細に記載をもらう予定であったが、有識者からの指摘を受け、自宅が不在であることがわからないよう住所の詳細を不記載にするなど、個人情報管理の観点から配慮した。

ウ 備蓄している水や食糧、物資の確認・配給

○ 備蓄物資の検討

現在、ペットの飼育に必要な水や食糧、物資は飼い主が持

参することとなっているため市としての備蓄は進んでいない。一般的には、発災後3～4日間程度のエサ（開封されたペットフード）が自宅にあると想定されることに加え、非常持出用品の準備の中にペット避難用の備蓄品を加えておくような啓発を引き続き進める。また、今回の検証において、クレートでペットを連れてきた参加者が多くいたが、狭いクレート内で長期に渡り飼育することは現実的ではないと感じるため、まずは中型犬程度であれば問題なく過ごすことができるケージを各避難所に最低でも1台は備蓄する必要があると考えられる。

○ 備蓄物資の保管場所

現在、ペットの備蓄物資は市の防災倉庫で一括して保管をしている。災害時には、各避難所のペットの避難頭数は、格差が生じることが予想されるため、今後も集約して保管していくとともに、防災倉庫から各避難所へ配送する体制を整えていく。

エ 安全対策

○ 逸走防止対策

今回の検証では犬のみの参加であったため、ケージでの飼育またはリードでつながった状態であれば、そこまで逸走の危険性は感じなかった。ただ、災害時にペットが興奮状態になることを考えると、できるだけ強度の高いケージやハーネスを使用すべきと考える。また、猫の管理を考えた際は、有識者の助言にあったように、基本的にクレート内で飼育することとなるが、プールの更衣室等の密室で定期的に運動させる必要がある。その際には、特に逸走を防止する必要がある。

○ 咬傷事故対策

今回の検証で使用した飼育場所は人の通りもあるため、咬傷事故対策は必要不可欠に感じた。実際の避難時は今回の検証より多くのペットが避難し、その中ではしつけができていないペットが避難することも想定される。そのようなペットもいることを想定し、ペット保管場所には柵で取り囲み、人とペットを隔てるべきであると考えられる。また、特に凶暴なペット用とし

て、ケージ飼育による隔離もやむを得ない考える。

○ 動物アレルギー対策

今回の検証で使用した飼育場所は人の通りが多く、動物アレルギーを持つ避難者に対し、配慮が必要であると感じた。今回使用しなかったが、スターターキットの導入によりペットの飼育場所を明示し、ペットが触れる場所がわかるようにすることや、柵等で物理的に隔てるなど、避難者の生活場所から切り離せるようゾーニングする必要がある。

○ 臭気対策

今回の検証で使用した飼育場所は風の通りが良く、臭気の問題は比較的少ないと感じた。各避難所で飼育場所を検討するにあたり、風の通りや避難者との距離を考え指定すべきである。

○ 鳴き声対策

今回の検証で絶えず吠えていたペットが参加していたことを考えると、避難者からクレームが出ることも想定されるが、そういったペットが同行避難をした場合、その場での対策は難しい。今後はペット防災の啓発を継続的に実施し、しつけの重要性を周知すべきである。また、ペット同行避難者専用(ペット同室避難)の避難所の開設についても検討すべきと考える。

○ その他の対策

ペット飼育者以外でも動物が好きで、なでたりする避難者がいる場合がある。ペットの性格にもよるところだが、知らない人間に接することでストレスを感じる可能性が高く、一般の避難者には飼育場所に近づかないように避難所運営マニュアル等の記載や、スターターキットによる飼育場所での周知が必要であるとする。

・展開期

ア ペットの管理方法

現在は、避難所運営委員会保健・衛生班の協力のもと飼い主が管理することとなっていて、特に定めはない。今回の事業において得られた有識者の助言から、必要な資機材のリスト及び準備する者の明記や、予防注射等を接種していないペットの隔離について記載したマニュアルを作成し、ルールを明確化する必要がある。

イ 支援ニーズの把握、支援要請

現在飼い主の要望を取りまとめて報告するような体系は整っていない。マニュアルを作成し、避難した飼い主で組織する会（以下「飼い主の会」）について定め、役割を明確化する必要がある。

・安定期

集約・統合・閉鎖の準備

現在は明確なルールを定めていなかった。今回の事業で得られた有識者の助言から、避難者台帳の管理方法、必要な資機材のリスト作成、飼い主の会の役割などを記載したマニュアルを整備する。

(2)地域性を考慮して取り組んだ内容及びその評価

本市の住民ニーズの高さから、同室避難についても検証を行った。同室避難を行う場合は、以下の課題があり、その対応方法に検討が必要であった。

項目	課題	対応案
ペット同室避難者と一般の避難者との公平性の確保	ペット同室避難者の避難場所や設備が優れていた場合、一般の避難者から不平不満が発生する恐れがある。	現在の避難所環境は空調設備や物資の充足について完全とは言えない。ペット同室避難者は、数がそこまで多くはなく、好条件を

			提示可能な場合があるが、一般の避難者とのバランスを考え、なるべく一般避難者と同じ条件になるように選定する必要がある。(空調設備の有無など)
	訓練の実施について	同室避難所を指定するにあたり、災害時では使用可能でも、アレルギーや臭気等により、恒常的な訓練の開催が難しい。	本市の公共施設でペットが立ち入り可能な施設は無く、訓練等による恒常的な使用でペットの同伴は難しい。実際の避難場所とは多少の乖離があるものの、外での訓練や、使用頻度の少ない施設で訓練を実施する必要がある。
同室避難は飼い主と居住スペースを別にする避難方法よりも、次の点で優れていると思われた。一方で、同室避難とするデメリットも確認された。			
		メリット	デメリット
	同室避難	・家族同然のペットと一緒に過ごすことが可能。 ・ペットの状態を逐一確認することが可能。 ・同室避難専用の避難所であれば一般の避難者に気を使わなくていい。 ・飼い主がそばにすることで、	・同室避難専用の避難所の場合、遠方まで避難しなければいけない場合がある。 ・臭気が籠りやすい。 ・鳴き声によりストレスを感じる。 ・ペットのそばを離れられないといったことによ

		ペットが落ち着きやすい。 ・飼い主以外の介入が少ない。 室内のため、ペットの逸走の可能性が低い。	り、日常生活への復帰が遅れる可能性がある。
	飼い主と居住を別にする避難	・鳴き声が気になりづらい。 ・臭気問題の可能性が低い。	・ペットの体調不良等に気づきにくい。 ・監視する者がいない場合、飼い主以外の介入の可能性はある。 ・外の場合猫の逸走の可能性はある。
以上のことから避難者のニーズに合わせて避難方法を選択できることは重要であると考え。現在本市では同室避難の環境整備はできていない。今後同室避難の環境整備に向けて検討を進めていく。 (3)施設の特徴を考慮して取り組んだ内容及びその評価 本市では既に避難所に指定している小・中学校で避難者とそのペットを同一敷地内別居避難にて受け入れることとしている。今回の検証は尾張旭市立白鳳小学校で実施した本市の総合防災訓練に併せて行った。検証の結果、小・中学校でのペットの受入れには、特に次の点を考慮に入れてペットの保管場所を検討することが重要であると考えられる。			
	考慮すべきこと	対応策	
	施設の現状復旧への配慮	飼育場所の閉鎖時は、使用前の状態に戻す必要がある。今回はコンクリートにブルーシートを敷いて実施したが、コンクリートのため傷がつき	

		にくく、汚れもブルーシートを剥がせば問題なく、適切な場所であったと考える。
	授業再開に向けた配慮	災害の程度にもよるが、授業再開を考えて飼育場所を決める必要がある。今回の検証は校舎外の渡り廊下の下部分を飼育場所として実施したが、授業再開した場合、飼育場所を通らなくても校舎間の移動は可能であり、かつ臭気も比較的気にならない場所であり、適していると感じた。今回のように授業再開後に小学生の動線に影響がなく、衛生が保たれる場所に決めることが重要であると考えた。 また、本市の小学校では水泳の授業を民間のプールで実施しており、小学校併設のプールは現在使用していない。飼育場所としてフェンスで囲まれたプールを使用すれば授業への影響は少ないため、ペット避難所として適しているが、老朽化や管理不足の面も踏まえて慎重に検討する必要がある。
	4 検証の結果、新たに産出した問題点とその改善案 現在の避難所運営マニュアルではペットはケージ等の中で飼育することになっており、ケージはサイズが大きく重量もあるため、持ち込みが難しく、クレートでペットを持ち運び、そのままクレートで生活することになると想定していた。ただし、今回の検証により、クレートは狭く、ペットの生活環境を考えると長期間のクレートでの飼養は難しいと感じた。災害時の初動でケージを避難所に持ち込むことは現実	

	的ではないことを考えると、敷地内でハーネス等により係留することになる可能性は高く、ケージ等の飼育に加えて係留も可能とするような検討を進める必要がある。 5 総評 ペット同行避難に向けたハード面での問題点は今回の検証により抽出でき、今後は改善に向けて取り組んでいくことになるが、ペット同行避難を受け入れるにあたり、自主防災組織や地域住民の方々に避難場所設営や受付の協力や、同じ敷地内でペットを飼育することの理解が必要不可欠となる。市主催の総合防災訓練でペット防災について取り扱ったのは今年度で2回目となるが、自主防災組織主催の校区防災訓練でペットの避難訓練等の実施が可能なほど周知ができているとは言い難く、特にペットに興味のない市民への周知が重要である。今回の事業では、ペット防災を題材とした中学生の自由研究を借用できたため、掲示を行ったが、ペットに興味がない市民も足を止めて見学していた。そういった点からも、ペット防災について関心を持ってもらえるように周知方法を工夫する必要があると感じた。今後もペット同行避難に向けて環境整備に取り組むとともに、引き続き防災訓練等でペット防災について積極的に発信し、理解を得られるよう進めていく。
--	--

※ 検証の様子が分かる写真を添付すること。

※ 関係機関との協議書、改訂した避難所運営マニュアルなど、事業により作成された成果物を添付すること。

ペット同行避難訓練及びペット同行避難体験

写真No.	状況
1	ペット防災ブースの案内表示
2	ペットと参加者がケージを持参して会場へ移動
3	ペット同行避難の受付①
4	ペット同行避難の受付②
5	ペット同行避難の受付③
6	ペット同行避難の受付④
7	掲示した中学生の自由研究
8	ペット同行避難時のルール
9	ペット同行避難訓練の内容
10	避難所ペット受付表・ネームプレート
11	ペット同行避難訓練の内容説明
12	ペット同行避難の様子①
13	ペット同行避難の様子②
14	ペット同行避難の様子③
15	ペット同行避難の様子④
16	ペット同行避難の様子⑤
17	ペットの排泄場所
18	ペット同室避難体験場所の外
19	ペット同室避難体験場所の中
20	ペット同室避難体験の内容
21	ペット同室避難体験の様子①
22	ペット同室避難体験の様子②
23	ペット同室避難体験の様子③
24	ペット同室避難体験の様子④
25	ペット防災用品の展示(尾張旭防災リーダー会提供)
26	ペット防災講話の資料①
27	ペット防災講話の資料②
28	ペット防災講話の資料③
29	ペット防災講話の様子



1



2



3



4



5



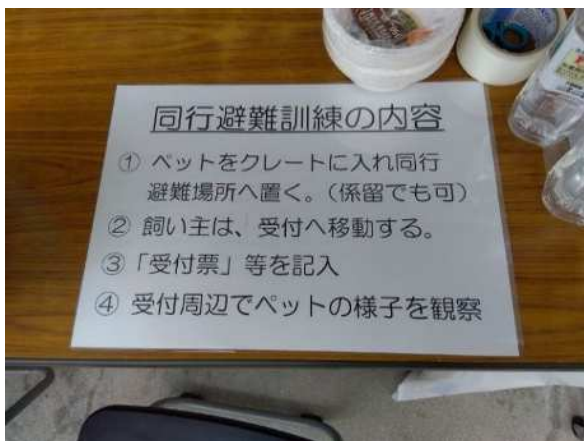
6



7



8



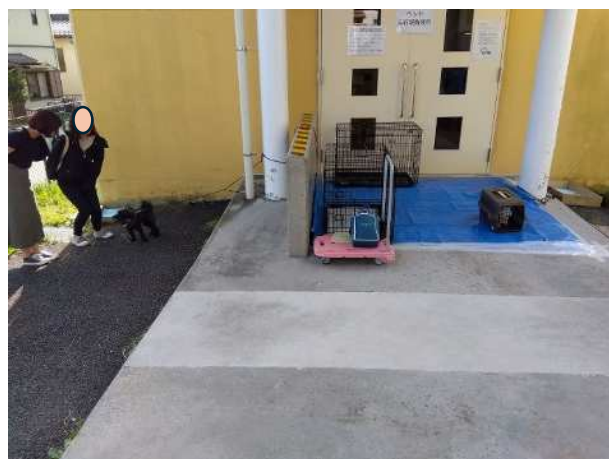
9



10



11



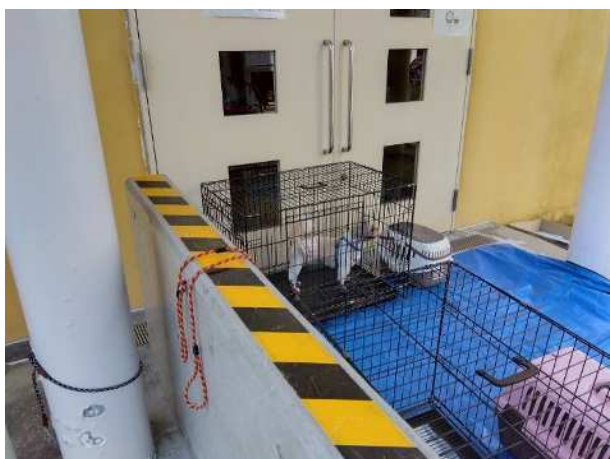
12



13



14



15



16



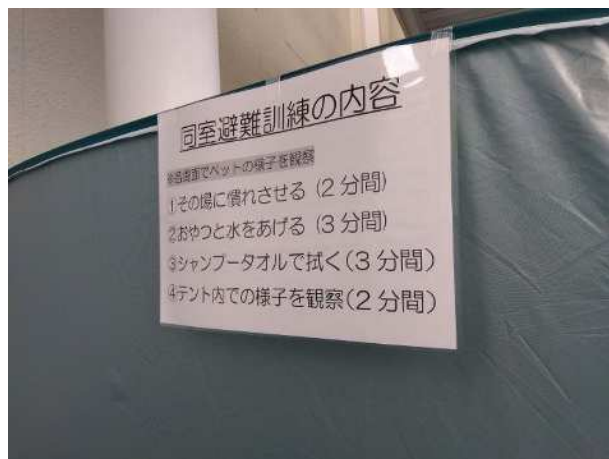
17



18



19



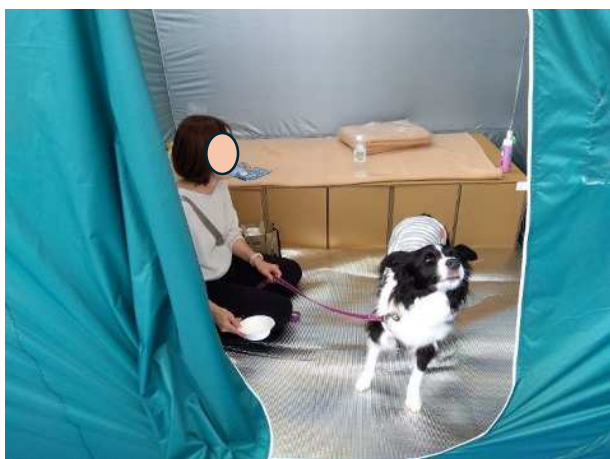
20



21



22



23



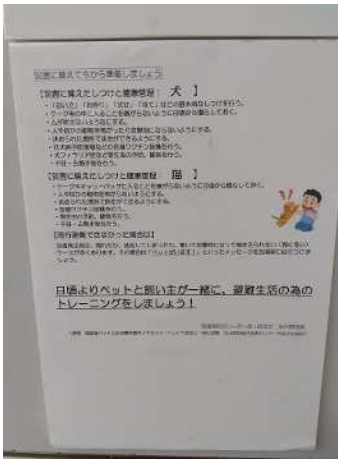
24



25



26



27



28



29